

アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は9年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュ NEWS をダウンロードによりご覧頂けます

国立感染症研究所(東京都新宿区)は、今年5月に大阪府で広がった新型インフルエンザ集団感染の疫学調査報告書をまとめた。府内全域で実施された休校措置は「拡大抑制に効果があったと推定された」と評価する一方、行事の中止による経済的影響など「負の側面も大きく、安易に実施できない」と指摘した。症状については「過去に日本で報告された季節性インフルエンザと比較して大きな違いはない」としている。報告書によると、大阪府在住者と通勤・通学者のうち、4月28日～5月末に新型インフルエンザに感染したことが分かったのは171人。うち20人は家族間の感染で、2人については、抗ウイルス薬の予防投与にもかかわらず感染していた。私立関西大倉中学・高校(同府茨木市)の生徒、教職員計105人の感染ルートは「明らかにできなかった」と結論付けた。また、海外渡航歴があることを新型の検査対象としたため、新型インフルエンザに感染していることの確認が遅れ、それが感染拡大の原因となった可能性を挙げた。また、新型インフルエンザ対策として発熱相談センターを府庁や保健所に設け、その機能を集中させたことによって、逆に多くの発熱者が受診しにくい状況になったと分析。国が当初構築した態勢に疑問を呈した。関西大倉高校で、感染していない生徒の家族らが医療機関の診療を断られるなどの風評被害も報告している

厚生労働省は25日、全国約5000カ所の医療機関からのインフルエンザ患者報告数が、14～20日の1週間で1施設当たり4.95になったと発表した。流行水準とされる「1」を超えてから6週連続の増加で、大半が新型インフルエンザとみられる。特に、東京都では初めて10を突破し、厚労省は「大都市を中心に、本格的な流行にさしかかりつつある」と分析している。1施設当たりの報告が1週間で1以上増えたのは、今回の流行で初めて。都道府県別では▽東京10.24▽大阪9.21▽北海道8.21▽千葉7.31――など大都市で高く、愛知は前週の3倍以上の5.81に急増。ただし、最も多い沖縄は12.52で前週から微減した。一方、この期間に都道府県から報告があった集団感染の発生件数は4082件で、前週より796件増えた。学校(保育園、幼稚園、小・中・高校)の休校と学年・学級閉鎖も前週より682校増えて2840校(休校166校、学年閉鎖500校、学級閉鎖2174校)に達した。いずれも首都圏、近畿圏などの大都市が多い。16～22日に新たに入院した患者は152人で、過半数の79人は10歳未満だった

群馬県は24日、第39週(9月21～27日)に、計20件の新型インフルエンザへの集団感染が疑われる事例があったと発表した。感染者は183人で、1件を除き幼稚園や小学校など学校関係だった。渋川市の幼稚園1園が休園。中学校2校で学年閉鎖、学級閉鎖は1園4校だった。主な集団感染は、館林市の中学校で54人(学年閉鎖)▽高崎市の小学校で21人▽利根郡の中学校で15人(学級閉鎖)――などとなっている。いずれも症状は軽微で、重症化した例は、報告されていない。県内99の医療機関を定点とした1医療機関当たりの患者数は、2・17人で、前週の第38週(9月14～20日)の2・58人に比べ、減少した。特に第38週に10・33人と注意報が出る10人を超えた吾妻地区は、第39週は2・00人だった。一方、県は一般家庭用に新型インフルエンザへの対処法などをまとめたリーフレット78万2700部を作成し、10月から県広報紙を通じて、各世帯に配布する。リーフレットは、タブロイド判2ページで、オールカラー。手洗いやマスクのつけ方、感染や感染が疑われる場合の対処法など、必要な情報がすぐに分かるように写真やイラストを多用した構成になっている

西早稲田の八幡寿司さんのブログより！！

光触媒のパイオニア、アークフラッシュさんが開発された「光触媒空気清浄機」です。

約20畳までの広さの範囲なら、浮遊菌の98%を除去する能力を有します。

ちなみに八幡鮨は数年前にアークフラッシュさんをお願いして店内すべて光触媒を施行済み。加えて照明器具も光触媒電球なのです。新型インフルエンザが大流行の兆しをみせる昨今、たいへん心強い兵器です。

もちろん、自己の責任において「うつらないこと」と「うつさない」ことは大前提。

マスク、手洗い、うがいを忘れずに！

咳も核も不拡散と防衛が基本ですね(^_^)v・・・ちょっと無理があったかなあ・・・



カテゴリ：[五代目のブログ](#)

新しい取り組み

現在 LED 蛍光灯の寿命は 40000 時間～50000 時間と言われております。

1日12時間点灯して約10年の寿命となります。それに対比して通常の蛍光灯は、12000 時間3年の寿命と言われております。

価格は 40W タイプで対比しますと LED 蛍光灯が約 20000 円、通常蛍光灯が ¥1500 円程度で販売されております。LED 蛍光灯の設置 1 回に対して通常蛍光灯は最低 3 回の交換が必要となり ¥20000: ¥4500 という価格対比となります。

使用する電気代金を対比は、2009 年東京電力の計算により24時間使用例として算出しますと以下のようになります。通常蛍光灯 40W を 10 年間使用すると電気代金は ¥78,584 円となります。上記と同じ程度の光量 LED 蛍光灯 15W タイプの電気代金 10 年分は ¥29,455 となります。その電気代金の差額は ¥49,129 となり品物の代金格差を大幅に逆転してしまいます。これは蛍光灯 1 本当たりの対比なのでこの差額に使用本数を掛ければ大幅なコスト削減になり、尚且つ、CO2 削減に大きく貢献することになります。弊社では、日本で生産された高品質の LED を使用して中国で組み立てを行い安価で皆様に供給できる体制を作りつつあります。

40W 型 LED 蛍光灯

100 本 @9800 円/本 ¥980,000 参考販売価格 @20,000 円/本

1000 本 @9000 円/本

上記蛍光灯を御社のレンタルシステムに組み込み対応すれば

品物代金の差額が約10000円御社の利益となり

お客様は削減された電気代金で ¥33629 の利益になります。

¥49129(差額電気代金)+¥4500(取替3回分)－¥20000(LED)

環境問題と政府政策の問題をクリアーにできる事業となります。

*** 発行責任者:株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-8860 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.co.jp

過去のアークフラッシュ NEWS はホームページよりご覧になれます。